

# Highlights

UNCRDハイライト

No. 66  
2020  
秋季号  
[2020年1月~6月]

## CONTENTS



### 01-02 [地域開発]

#### 統合的地域開発計画

- 第10回世界都市フォーラムに遠藤所長が登壇
- [自治体SDGs事業] SDGs(持続可能な開発目標)講演会
- [自治体SDGs事業]「清流の国ぎふ」SDGs推進セミナー



### 02-04 [環境]

#### 3R(リデュース、リユース、リサイクル)/廃棄物管理

- 第12回アジア3R自治体間ネットワーク会合

#### 地方自治体の廃棄物管理サービスを拡大するための国際パートナーシップ(IPLA)

- 第15回廃棄物処理技術に関する国際会議(ICWMT)においてIPLA特別セッションを開催

#### 環境的に持続可能な交通(EST)

- 新型コロナ危機 存続危機にあるバス事業者に政府はどう対応できるか



### 04-05 [防災リスク管理]

- 水と文化国際シンポジウム
- 第15回水と災害に関するハイレベルパネル(HELP)会合



### 05-07 [広報]

- 一般公開セミナー「地域で進める持続可能な開発目標(SDGs)2020」
- 信州環境カレッジ×国際連合地域開発センター協働講座 SDGsワークショップ
- 名古屋市SDGs普及啓発冊子「SDGsってなに?」発行
- 「国連事務局人事担当幹部による国際機関就職セミナー～履歴書の書き方、インタビューの受け方～」に協力



United Nations Centre for  
Regional Development (UNCRD)  
Nagoya, Japan

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS  
世界を変えるための17の目標



# 地域開発

## 統合的地域開発計画



### 第10回世界都市フォーラムに遠藤所長が登壇

【2020年2月10日 アブダビ市(アラブ首長国連邦)】

2020年2月8日～13日までアラブ首長国連邦のアブダビ市で開催された第10回世界都市フォーラムにUNCRD所長の遠藤和重が出席しました。2月10日のスペシャルセッション「ボランタリー・ローカル・レビュー(VLR)」には、遠藤所長がスピーカーの一人として登壇しました。ボランタリー・ローカル・レビューとは、自治体が自発的に持続可能な開発目標(SDGs)の実施状況をレビューし、その結果をレポートとして発表・公開する取り組みです。

遠藤所長は、まず日本におけるSDGs推進に向けたこれ

までの取り組みについて説明した後、日本の自治体(北九州市・富山市・下川町)のVLR事例を紹介しました。また、データを活用した「見える化」の取り組みとして、ベルテルスマン財団・持続可能な開発ソリューション・ネットワーク(SDSN)や世界都市データ協議会(WCCD)等の取り組みを紹介し、今後もこうした「見える化」を特に地域レベルで進めていくことの重要性を強調しました。UNCRDでは今後も、VLRの重要性を唱え、その取り組みを支援していきます。

### 自治体SDGs事業

#### SDGs(持続可能な開発目標)講演会

【2020年1月8日 愛知県蒲郡市】

蒲郡市役所において「SDGs(持続可能な開発目標)講演会」が開催されました。講演会はUNCRDの協力のもと行われ、鈴木寿明蒲郡市長をはじめ、各部署から横断的に計60名の職員が参加しました。

冒頭、蒲郡市役所からの挨拶の後、UNCRDの遠藤所長が、「地域で進めるSDGs」と題して講演しました。SDGsが採択された背景や海外での動向、日本政府によるこれまでの取り組み、さらには自治体がSDGsに取り組む意義等について話をしました。続いて、尾張市役所健康都市推進室の谷口室長補佐が、「健康都市の取組とSDGs」と題して事例紹介を行いました。市のSDGsに関する様々な取り組みや、市の計画や具体的な事業とSDGsとの関連性を整理した考察について紹介しました。

講演会を通じて、参加者はSDGsや自治体に取り組む意義について理解を深める一方、尾張旭市の取組みから得た気づきや学びを共有することで、今後職場でどのように活かすことができるかを考えるよい機会となりました。また、講演会後は、鈴木市長・企画政策課、尾張旭市役所、UNCRDの3者で、今後のSDGs推進や普及啓発について意見交換も行われました。蒲郡市役所内において、SDGsの理念や内容がさらに浸透し、その理念の沿った取組みがさらに推進され、持続可能なまちづくりにつながることが期待されます。



講演会の様子

## 自治体SDGs事業

### 「清流の国ぎふ」SDGs推進セミナー

【2020年6月19日 岐阜県岐阜市】

UNCRDは、岐阜県と共催で「清流の国ぎふ」SDGs推進セミナーを開催しました。新型コロナウイルス感染症による非常事態宣言の解除後、初となる本イベントは、会場内の消毒に加え、参加者の健康確認や入場制限など、感染拡大防止に配慮して行われ、岐阜県内の企業関係者など約100名が参加しました。

第1部では、UNCRDの遠藤所長が「地域で進めるSDGs

～新型コロナと共に歩むSDGs達成に向けた挑戦～」と題し、講演をしました。UNCRDの紹介から始まり、SDGsに関する国連の思想や取組み、また日本政府の取組みについて紹介をしました。加えて、新型コロナウイルス感染症の世界の動向と主な政策課題にも触れました。続いて、リコージャパン株式会社岐阜支社と和光会グループの2社が、企業としてのSDGsの取組事例を発表しました。

第2部は、事前予約制の「相談会」を開催しました。UNCRD、岐阜県、国際協力機構（JICA）でそれぞれ相談ブースを設けて、参加者からの質問に応じました。UNCRDは、企業や自治体からの質問を担当し、新規事業への助言や関連する情報の提供などを行いました。

こうしたセミナーは、今年度、岐阜県内の他圏域でも開催を予定しており、今後ますますSDGsの取組みが岐阜県内において加速することを期待します。



遠藤所長による講演の様子

## 環境

### 3R(リデュース、リユース、リサイクル)／廃棄物管理

#### 第12回アジア3R自治体間ネットワーク会合

【2020年1月22日～23日 福岡県北九州市】

UNCRDは、一般財団法人日本環境衛生センター（JESC）、日本国環境省、北九州市との共催で、2020年1月23日に、北九州市において、第12回標記会合を開催しました。

本会合は、アジア地域における廃棄物リサイクルの分野において3Rの適切な推進に大きな役割を持つ地方自治体の交流、ならびに3R推進の共同行動の拡大を目的としたもので、第12回会合は「自治体によるプラスチックごみ等の対策と課題」をテーマに、アジア地域の首長及び地方自治体の代表、国連および国際機関、民間企業、NGOなど、

8カ国から100名以上が参加しました。

会合は、南川秀樹JESC理事長による開会の挨拶で開幕しました。UNCRDは、アジア太平洋地域におけるプラスチック廃棄物による汚染状況やそこから受ける深刻な経済的損失とダメージ、適切なプラスチック廃棄物管理の重要性等を説明した上で、循環型経済やニュー・プラスチック・エコノミーの必要性について述べ、UNCRDが取り組む「アジア太平洋地域における3Rの推進」と「地方自治体の廃棄物管理サービスを拡大させるための国際パートナーシップ

(IPLA) –SDGパートナーシップ」、そしてSDGsについて発表しました。

参加者らは、アジア地域においてプラスチック廃棄物の問題が増加しているという認識のもと、効果的な3R政策、計画や制度を通じて循環型経済開発アプローチを進める

ことによる多くの利点を確認し、Kitakyushu Declarationを議論し採択しました。

また、会合の前日には、北九州市エコタウンセンターを見学に訪れました。



会議の参加者

## 地方自治体の廃棄物管理サービスを拡大するための国際パートナーシップ (IPLA)

### 第15回廃棄物処理技術に関する国際会議 (ICWMT) において IPLA特別セッションを開催

【2020年6月28日～30日 オンライン】

UNCRDは、第15回廃棄物処理技術に関する国際会議 (ICWMT) において、地方自治体の廃棄物管理サービスを拡大するための国際パートナーシップ (IPLA) の特別セッションを開催しました。

セッションは、2030アジェンダ及びSDGsの実施に向けて、廃棄物管理に関わる新たな課題を含めた3R分野のベストプラクティスの普及と知識を共有するプラットフォームを提供し、廃棄物関連のインフラやサービスの世界的なネットワークの構築、幅広いステークホルダーの間で資源循環のモデルや官民連携 (PPP) が促進されることが期待されました。セッションでUNCRDは議長を務め、発表も行いました。発表では、アジア太平洋地域における廃棄物管理と循環型経済の現状と、SDGsの影響を考慮した廃棄物

開会の挨拶をする  
バーゼル条約アジア  
太平洋地域事務所  
のエグゼクティブ・  
ダイレクター



議長を務めたUNCRD  
のスタッフ

ゼロの社会に重点をおいて発表を行いました。

なお、UNCRDは第15回ICWMTを後援しました。

2020年1月から6月に下記を開催しました。

【2020年6月5日】 International Society of Waste Management Air and Water (ISWMAW) 等と「COVID-19のパンデミック発生時の生物多様性と環境保全(仮)」をオンラインで共催

## 環境的に持続可能な交通 (EST)

### 新型コロナ危機 存続危機にあるバス事業者に政府はどう対応できるか

【2020年4月9日 オンライン】

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により人々の移動に制限や減少が生じています。そのため、公共交通機関の経営が厳しくなっています。UNCRDは、バスワールドアカデミー、及び国連ハビタット (UN-Habitat) との共催により、withコロナ・afterコロナにおいてバスとコーチ (長距離バス) の事業者が期待する政府からの支援についてのセミナーをオンラインで開催しました。

セミナーでは、バス事業者らが経営を維持するための経済的および財政的措置について、バスシステムの運営を維持するための措置について、バス運転手やその他のスタッフの安全を保つための措置について、の3つのテーマについて討議されました。参加者からは、バス業界は現時点ではどのような行動がとれるか、どのような措置を政府に提案

しているか、そしてそれらに対してどのような反応が期待できるか、など多くの質問が出され、意見交換や対策案の提案、助言がなされました。また、セミナーでは、これらの課題について、インドのBus & Car Operators Confederation of India (BOCI)、アメリカのAmerican Bus Association、スウェーデンのSverige Bussföretag、ヨーロッパのInternational Road Transport Union (IRU) の幹部らによる見解も示されました。

UNCRDは上記セミナーの他、6月4日にバスワールドアカデミーによるオンラインセミナー「新型コロナによるロックダウン中・後のバス事業の再開について(仮)」の開催に協力しました。

2020年1月から6月に下記の会議に参加し貢献しました。

【2020年3月5日～6日 イスタンブール市(トルコ)】 2020 Bus World Conference

## 防災リスク管理



### 水と文化国際シンポジウム

【2020年2月3日 東京都】

UNCRDは、2020年2月3日(月)東京の政策研究大学院大学 (GRIPS) において、GRIPS、水と災害に関するハイレベルパネル (HELP)、国際記念物遺跡会議 (ICOMOS) オランダと共催で「水と文化」国際シンポジウムを開催しました。

世界各国の水に関する遺跡、史跡、文書の事例共有などを通じ、水と人との関係や、水を通じた文明・文化の形成過程を深く知ることを狙いとして開催された本シンポジウムには、天皇皇后両陛下のご臨席の下、43の国と地域から約260名が参加しました。世界中から集まった研究者や実務者によって発表された事例をもとに、水と文化が地域の



発展に与えたインパクトとその要素、そして今後の地域社会の発展に水が果たす役割と、SDGsにも謳われている世界の環境保全と持続可能な成長に向けた新しい人と水の関り、さらにはそのために我々がなすべきことは何かということについて、熱心な議論が行われました。

開会式の間には、2019年9月に開設したUNCRD東京事務所の開所式も執り行われ、UNCRD所長の遠藤和重から東京事務所をホストするGRIPS学長の田中明彦市に看板が手渡されました。

シンポジウムの成果は、2021年及び2022年にニューヨークの国連本部で開催される水に関する会合やリージョナル・グローバルな水に関する議論にインプットしていく予定です。

議長ステートメントと議論のサマリーはHELPのウェブサイトに掲載されています。



シンポジウムの会場全体の様子



東京事務所の開所式の様子

## 第15回水と災害に関するハイレベルパネル(HELP)会合

【2020年5月29日 オンライン】

第15回水と災害に関するハイレベルパネル(HELP)会合は、ウェブ会議システムを用いて、HELPの歴史上初めてとなるオンラインにて開催され、UNCRDは会議の事務局業務を支援しました。

会議には、各国政府、国際機関、学術界、市民社会、民間を代表するHELP加盟機関及びパートナー機関から84名が参加しました。ゲストスピーカーには、世界保健機関(WHO)健康開発総合研究センター(WHO神戸センター)の茅野龍馬医官と、香港中文大学/オックスフォード大学

災害・医療人道対応協力センター長のエミリー・イン・ヤン・チャン教授をお招きしました。

会議では、新型コロナウイルス感染症パンデミック下においてHELPはどう水災害のリスク軽減への取組みを実施していくかが主な議題として議論され、「新型コロナウイルス感染症大流行下で水関連災害に対処するための原則」が採択されました。

国連公用語を含む8カ国語に翻訳された原則はHELPのウェブサイトに掲載されています。

# 広報

## 一般公開セミナー

### 「地域で進める持続可能な開発目標(SDGs)2020」

【2020年1月28日 愛知県名古屋市】

UNCRDは、名古屋国際センタービルにおいて、一般公開セミナー「地域で進める持続可能な開発目標(SDGs)2020」を開催しました。本セミナーは、中部地域の方々にSDGsについての理解を深めていただき、地域における取組みについて共に考えることを目的として開催しているもので、今回で4回目の開催となりました。

日本においては、2019年12月に、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」がまとめられ、「SDGsを原動力とした地方創生の推進」が施策の方向性として明確に打ち出されました。そこで今回は、持続可能な開発の3つの柱である経済、社会、環境に加えて、人口減少という日本特有の要素を加味したカードゲーム「SDGs de 地方創生」を使って、

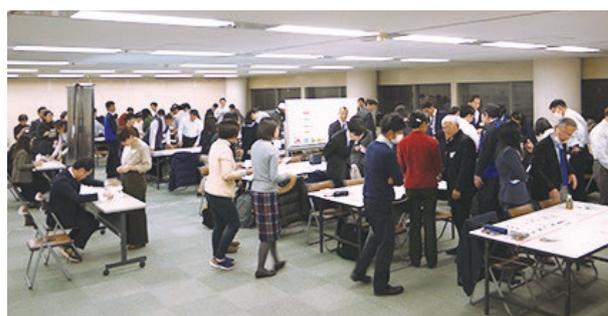


ワークショップ形式で実施し、計65名の方が参加しました。

まずは、SDGsや地方創生の考え方についての共有が行われた後、参加者は、2つの地域に分かれ、行政や事業者、市民といった役割を担って、人的資源やお金を使って、プロジェクトカードに書かれたプロジェクトを実施しました。プロジェクトの結果は、ホワイトボードに「まちの状況」として可視化され、持続可能な社会の実現を目指しました。人口減少に直面しながら、いかに地域を活性化し持続可能な開発を促進するのか、ゲームを通じて体感して頂きました。

会場は熱気にあふれ、プロジェクトの実施に向け熱心に交渉する姿や、「まちの状況」の変化に一喜一憂する様子が印象的でした。終了後のアンケート結果でも、参加者の満足度は高かったことがわかり、「プロジェクト内容が身近で、SDGsとまちづくりプロジェクトのつながりを具体的にイメージすることができました。」や、「様々なステークホルダーで協働することの重要性を実感することができました。」といった前向きなコメントを多く頂きました。2019年7月

には愛知県、名古屋市、豊橋市がSDGs未来都市に選定され、県内のSDGsの推進に向けた機運が高まってきています。UNCRDでは「地域で進めるSDGs」をキーワードに、こうした機運を中部圏に広げていけるよう、引き続きSDGsの普及啓発に力を入れていきます。



会場の様子

## 信州環境カレッジ×国際連合地域開発センター協働講座 SDGsワークショップ

【2019年11月30日～12月1日 長野県上田市、長野市／2020年1月18日～19日 長野県伊那市、松本市】

「信州環境カレッジ」は、長野県庁が「学びの県づくり」の一環として、環境に関する県民の学びを拡大し、信州の美しく豊かな自然環境の保全や持続可能な社会を支える人づくりを進めることを目的に取り組んでいる事業です。この度、信州環境カレッジにおいて、UNCRDが依頼を受け標記ワークショップを開催しました。ワークショップは、県内4か所（上田市、長野市、伊那市、松本市）でそれぞれ開催され、自治体職員や会社員、高校・大学生等、計99名が参加しました。

ワークショップでは、SDGsの17の目標を達成するために、現在から2030年までの道のりを体験するカードゲーム「2030SDGs」を使って、参加者は「なぜSDGsが私たちの世界に必要なのか」、そして「それがあることによってどんな変化や可能性があるのか」を体験的に学びました。参加者は、中学生からリタイア世代まで多様なバックグラウンドを持った方が参加、参加者間の対話やコミュニケーションは、ゲームが進むにつれて、活発に行われるようになりました。

ワークショップの後のアンケートでは、参加者からは

SDGsを自分ごととしてとらえて頂けるきっかけとなったことが伺えるような感想やコメントを多く頂きました。長野市で開催されたワークショップの様子は、後日地元テレビ局で放映されました。県内の様々な主体の方に参加して頂いたことで、SDGsの取組みの輪が広がるのが期待されます。



伊那市役所でのワークショップ参加者

2020年1月から6月に下記に参加し、発表、講演、講義等を行いました。

**【2020年2月18日 愛知県自治センター】**

「愛知県尾張東部・西部環境保全連絡協議会実務研修会」において「地域で進めるSDGs」と題して講演

**【2020年2月28日 ウィンクあいち】**

「SDGsコミュニティづくりフォーラム 2020」パネリストとして登壇

## 名古屋市SDGs普及啓発冊子「SDGsってなに？」発行

**【2020年4月10日】**

2019年7月、名古屋市は、内閣府よりSDGsの達成に向けた優れた取組みを提案する自治体「SDGs未来都市」に選定されました。そこで、SDGsに対する市民の理解を高めることを目的とし、啓発冊子「SDGsってなに？」を作成しました。

作成にあたっては、UNCRDは監修という形で協力しました。冊子には、SDGsの趣旨及びSDGs未来都市について、

17のゴールについての解説と名古屋市の取組み例が記載されており、また関連施設紹介としてUNCRDの活動が紹介されています。特に17のゴールについては、日本の状況についても言及した簡単な説明と4コマ漫画で分かりやすく解説しています。市民の認知度向上につながるものが期待されます。

## 「国連事務局人事担当幹部による国際機関就職セミナー～履歴書の書き方、インタビューの受け方～」に協力

**【2020年2月18日 愛知県名古屋市】**

UNCRDは、外務省国際機関人事センター主催の標記セミナーに協力しました。東京の国連大学で行われたセミナーを、UNCRDのある名古屋市、国連訓練調査研究所(UNITAR)広島事務所(広島市)、国連人間居住計画(UN-Habitat)福岡本部(福岡市)の3都市においてウェブ会議システムを用いて中継し、UNCRDの会場には、大学院生を中心に約10名が集まりました。セミナーでは、国連事務局人的資源部戦略人材管理課長による、国際諸機関特有の履歴書の書き方のコツやインタビューを受ける際の心構えなどについての講義が行われました。講義後の質疑応答では、チャット機能を使って地方会場からの質問が受け付けられ、UNCRDの会場からも質問が送られました。

UNCRDは、2012年より開催している公開セミナー

「国連を職場として」において国連機関に就職するためのガイダンスを行っています。今回のセミナーは、試験対策に踏み込んだ内容でしたので、すでに国際機関への就職を意識している方々にとってより具体的に考える機会になったと思われます。今回の催し形態はUNCRDにとって初の試みでしたが、今後もこのような機会には積極的に行っていきたいと考えています。



名古屋会場の様子

## Highlights [UNCRDハイライト]

本誌掲載記事の詳細については、下記の国際連合地域開発センターまで

国際連合地域開発センターニュースレター No.66 2020年秋季号

編集：国際連合地域開発センター(UNCRD)  
名古屋市中村区那古野1-47-1 名古屋国際センタービル6階  
TEL:052-561-9377 FAX:052-561-9374  
E-mail:rep@uncrd.or.jp  
ホームページ <http://www.uncrd.or.jp/ja>

発行：国際連合地域開発センター協力会  
名古屋市中区栄四丁目14番2号 久屋パークビル3階  
公益財団法人中部圏社会経済研究所内  
TEL:052-212-8790 FAX:052-212-8782